

事業所名	プロッサムジュニア 小田原鴨宮教室（児童発達支援）	支援プログラム	作成日	2025 年	1 月	6 日			
法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるようこび」		営業時間	平日：9時30分から17時 土曜・学校休業日：9時30分から16時					
支援方針	・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用いし、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情緒を豊かにします。		送迎実施の有無	なし					
	ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容						
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活リズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得	<p><b>(a) 健康状態の把握</b> 個々の心身を育てながら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示の確認を怠らぬよう、今までの経験の蓄積及び発達の過程・特性に配慮し、小さなサインから身の異変に気付けるよう、きめ細かな観察を行なう。 <b>(b) 健康の増進</b> 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる事を務む力の育成に努めるとともに、楽しむ・食事ができるよう、口腔内機能・感覚、姿勢保持・自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や完全への適応を行なう。</p> <p><b>(c) 基本的生活スキルの実施</b> 日常生活や社会生活を豊めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 <b>(d) 基本的生活スキルの獲得</b> 身の回りを意識し、食事・衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 <b>(e) 構造等による生活環境を整える</b> 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>	<p>来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。感覚がある時は、気持ちの絵やカードや言葉のモデルを使い、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事・排泄・着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行います。）</p> <p><b>[共通]</b> ・沐浴やお出産、筆箱やプリント類をロッカーや所定の場所に入れるだけではなく、使用後に元の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・ランドセルの中を確認し、プリント類が整理整頓されていない場合は一緒に連絡袋に片づけることを習慣化する。</p>						
	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	<p><b>(a) 姿勢と運動・動作の向上</b> 日常生活における動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 <b>(b) 姿勢保持・運動・動作の補助的手段の活用</b> 姿勢の維持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助器具等の補助的手段を活用してこれができるよう支援する。 <b>(c) 保有する感覚の活用</b> 保有する感覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 <b>(d) 保有する感覚の活用</b> 保有する感覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 <b>(e) 姿勢保持等に対する感覚の活用</b> 保有する感覚器官を利用して状況を把握しやすくなる眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 <b>(f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応</b> 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。</p>	<p>体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。サークットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、規範的に理解する力の向上を促します。様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。</p> <p><b>[共通]</b> ・バランスストレーニングやタコボリン、バランスボールなどをを使ってバランス感覚や体幹を鍛える。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にラバーブランクッションを置いて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼つつけられた箇所を探したり、シールを剥がすなどの活動を行なう。 ・集団療育では制作を通じた微細運動、しほ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいます。</p>						
本人支援	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	<p><b>(a) 感覚や認知の活用</b> 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 <b>(b) 知覚から行動への認知過程の通達</b> 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 <b>(c) 認知や行動の手順からなる概念の形成</b> 物の性質、形状、形、色等が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手順からとして活用できるよう支援する。</p> <p><b>(d) 数量・大小、色等の習得</b> 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 <b>(e) 認知の偏りとの対応</b> 認知の性質を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 <b>(f) 行動制限への対応及対応</b> 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。</p>	<p>買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。繪本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教員を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。</p> <p><b>[共通]</b> ・感情のコントロールができるよう順番交換、「貸して」と言葉で伝えるなどの手立てで練習する。 ・カーブで練習することで、お貸したり貸したら必ず戻さねばならない順序が同じくする機会の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立て順番を持つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。</p>						
	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の豊富さと表現 (c) ミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) ミュニケーション手段の選択と活用	<p><b>(a) 言語の形成と活用</b> 身体的な操作や体験と言語の意味を結び付ける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 <b>(b) 言語の豊富さと表現</b> 話し言葉や記号の文字等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。 <b>(c) ミュニケーション能力の獲得</b> 個々に配慮された場面における人の相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 <b>(d) 指示語・サイン等の使用</b> 個人の相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人の相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 <b>(e) 環境の理解と意思の伝達</b> 指し物、手形、リヤー等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 <b>(f) 発達段階での言語の選択</b> 発達段階での言語の選択に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 <b>(g) ミュニケーション機能の活用</b> 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。</p>	<p>お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通して児への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたしながら「ここは」の理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことはを学ぶ環境を提供し、日常会話や会話の練習を通じて、言葉を覚えることを、お貸したり貸したら必ず戻さねばならない順序が同じくする機会の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立て順番を持つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。</p> <p><b>[児童発達支援]</b> ・本児の興味、関心のある好きな活動やおもちゃを用意して発声しやすくなる環境を整え、職員がモデルを示すことで発話を促す。 ・集団活動を通して他者に対して自分の要求を伝えることが出来るよう、簡単なハンドサインや「貸して」「ちょっといい」「いいね」などの言語表出をする環境を設ける。</p> <p><b>[放課後等デイサービス]</b> ・個別療育を通して様々な気持ちの理解や自分の気持ちの表出方法を職員と一緒に考える環境を作り、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して他児と関わる楽しさをより、適切な言葉使いを手に伝わる話し方を学習していく。</p>						
人間関係・社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	<p><b>(a) アタッチメント（愛着行動）の形成</b> 人の心の底にある、身近な人との親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 <b>(b) 仲間との共生</b> 遊びを通じて他の力を發揮することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 <b>(c) 感觉療育遊びからの支援</b> 感覚機能を鍛えた遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつまじ遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びをして、徐々に社会性の発達を支援する。 <b>(d) 一人だから仲間との支援</b> 個人どうがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 <b>(e) 自己の理解とコントロールのための支援</b> 大人を介して自分でできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 <b>(f) 集団への参加への支援</b> 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。</p>	<p>事前に視覚的な手順から使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他の人の感情を理解し、適応でできるよう、職員がモデルを示します。グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通じて、他者との関わりや協力的重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わらながら向い遊びに興味を持たせ、人の交流を楽しめるようサポートします。ここに遊びや共同遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動やここのモデルを示します。</p> <p><b>[児童発達支援]</b> ・職員や他児との接続やハグ・タッチを行うことにより、視線を合わせて聞く姿勢をもつ。 また集団活動を行う上で、職員や他児の模倣をして他者に興味や関わりを持ち、人間関係の地盤を構築する。</p> <p><b>[放課後等デイサービス]</b> ・ダイマムを使用して始まりの時間や終わりの時間の意識を持つ。集団療育や個別療育などの一斉指示を通じて先を見据えた行動を行い、相手の気持ちを尊重しした言動を取ると共にその場面に応じた行動が出来るよう促し、習慣化する。</p>						
	(a) 別個別療育・集団療育を行った活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングは別に面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。	移行支援	<p>・必要に応じて学校（園）に訪問し、児童との関わり方にについて情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校（保育園・幼稚園）への送迎や、先生と学生（園）での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。</p>						
地域支援・地域連携	・関係整理で役割分担し、情報を共有を行います。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングは別に面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・各施設機関の情報を蓄積し、具体的な場面での関わり方や、困ることに關しての提携やポイントを共有します。 ・セラフランクの方には利用計画のコーディネーターの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。	職員の質の向上	<p>プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修会 ・専門職研修によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束正化研修 ・感染症対策研修</p> <p>その他 児童発達ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施</p>						
	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動								